



1. 愛着関係は、生きる力を充電する安全基地

県民文化部 こども・家庭課 児童相談・養育支援室
室長 樋口 忠幸

令和2年2月24日（振替休日）に上田映劇（上田市）で映画「夕陽のあと」の上映会とトークショーがあり、参加させていただきました。物語は、7歳になる里子を赤ちゃんの頃から育てている里親が特別養子縁組の申請を控え、本当の母親になれる期待に胸を膨らませている時、行方不明だった生みの親が子どもと里親の前に現れるというものでした。生みの親と育ての親は、双方に子どもと離れる辛さとお母さんと呼ばれる喜びの葛藤に苦悩しますが、やがて、生みの親が子どもの生活場所を離れていくストーリーでした。映画の場面では、子どもが里母に「ぎゅってして。」と言って甘えると、里母は何も言わずにしっかりと子どもを抱きしめてくれるシーンが幾度も出てくるのが印象的で、子どもにとってはどちらの親も確かな絆を感じられるかけがえのない存在であるということがテーマだったように私は感じました。

さて、平成28年児童福祉法改正では、「家庭養育優先」の理念が規定されました。子どもは、安全で安心して暮らすことができる家庭的な環境の中で、親を中心とする特定の大人との「愛着関係」を土台として、年齢に応じた自己決定が尊重されつつ、子どもの状態に配慮されながら自立を支援していく養育を受けることによって、生きていくために必要な意欲や良き人間関係を築くための社会性を獲得していくという視点が基本になっており、子どもの保護を中心とする従来の児童福祉法にはなかった新しい理念です。

愛着とは「特定の人との間に結ぶ情緒的な絆」と定義されることが最も一般的になっているようですが、愛着には「安全基地」の機能が備わっていることの理解が重要になっています。「安全基地」とは、いざという時に頼ることができ、守ってもらえる居場所であり、心のエネルギーを充電できる存在です。子どもは、どんな時であれ「大丈夫だよ。」と言ってくれる存在にありのままの自分をしっかりと受け入れてもらえる時、様々なストレスを打ち破って自分の人生に対する主体性や責任を得ることができ、自分が大切にされることで自分や他者を大切にすることができるようになります。そして、愛着という「安全基地」をベースに様々な新しい世界に挑戦していく中で、失敗や成功を体験しながら自己肯定感を高めるとともに人間関係など社会に適應できる力を培い、やがて、一人の人間として自分らしく人生を切り開きながら生きていけるようになります。このため、子どもが健やかに成長し、自分らしく人生を歩んでいくためには、【愛着＝特定の大人との絆＝安全基地】が安定して存在することがどうしても必要なのです。

今年は、「長野県社会的養育推進計画」のスタートの年です。虐待を受けた子どもや何らかの事情により実の親が育てられない子どもを含め、全ての子どもたちの養育に対して社会が保護者（家庭）とともに責任を持ち、家庭を支援していくための様々な施策が始まります。社会が責任をもってすべての子どもに安定した「愛着関係」を提供し、一人ひとりの子どもたちがそれを土台として自分らしく豊かに人生を歩んで行ける社会の実現に向けて皆様のご協力をお願いします。



2. 研修参加報告

中央児童相談所 家庭養育推進係
柳田 和美

令和2年2月12日から3日間、東京都で開催された「フォスタリング機関職員研修」に参加してきました。この研修はフォスタリング業務（里親に関する業務）を担う職員の資質向上を図ることを目的として、厚生労働省の補助事業を活用して全国5会場で合計12回、里親支援機関職員や児童相談所職員などが参加し、初めて開催されたものでした。

研修の主な内容は、「フォスタリング機関（里親養育包括支援機関）及びその業務に関するガイドライン」を参照して里親支援を振り返る支援者版の里親業務基礎研修のようなイメージのもので、会場毎に異なる講師の実践例を交えた講義を受講し、参加者が演習する形式で行われました。

印象に残ったのは、双葉乳児院の里親支援機関担当主任の「乳児院では、聞くことはできて内に言葉は持っているが、外に発信していくことが苦手な子が多かったため、聞かれて表明する関わりを施設内で増やすようにした」との話でした。

里親支援の中で感じた気づきを、里親さんへの相談支援で終わらせずに、施設内での子どもたちのより良い発達を促すための取り組みに繋げていくことが、これからの里親養育にも施設で生活している子どもたちにも双方に良い変化が芽生える取り組みであると感じました。

ほかに、青山学院女子短期大学の横堀教授から、自身の両親が開所したファミリーホームで実子として育った中で感じた思いに触れる話があり、現在、双葉乳児院と連携して実践している「特養子キャンプ」の取り組み事例を聞きました。養子、里子、里親宅の実子のそれぞれの視点に立った支援を考えることが必要と感じました。

長野県でも、地域性を生かした里親支援の取り組みを、里親会と支援機関が一緒に考え、協力して実践していきたいと思いました。



3. 北信・上小里親会（つむぎの会） 活動報告



つむぎの会 前会長 倉石 信彦

5/14 付で長野県では、緊急事態宣言が解かれました。外出を自粛し、私も里子たちと一生懸命、家にこもっておりました。自粛中の努力の結果が、日々数字として表れていることが、喜びであります。また、長野県里親連合会北信上小地区里親会「つむぎの会」会長をこの度退任し、後任の方に引継ぎました。3期6年間大過なく会長の任を務め終えさせていただくことが出来てほっとしています。

さて、昨年度を振り返りますと、まず大きな出来事は、台風 19 号の影響で、「長野県里親大会」が中止となったことです。事前の会議や準備にお力添えいただいた方々に厚く御礼申し上げます。また、台風 19 号による災害では、当会でも会員 2 組の里親家庭が被災されました。そのことでは、つむぎの会会員のみならず、全国里親会、長野県里親会連合会、児相職員、4Sさん他多数の皆様へ、心温まるご寄付を賜りましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。昨年秋に、被災された 2 組の里親さんに、お届けさせていただきました。

長野県内のいたるところで災害が発生し、私も時間を見ては、被災地（穂保地区）に赴き、泥出しをしたり、炊き出しをしたりと復旧活動に携わらせて頂きました。

災害発生より3か月後の1月13日（祝）に、被災者対象の「明日に向かって踏み出す集い」という会を開催するとのことで主催者から声がかかり、「つむぎの会」で参加を決めました。当日は会場の入口の一番目立つ場所に、石臼をセットし、餅つきをしました。天気が良く、2,000名を超える参加者で、ブースには長蛇の列ができました。用意した300食のあんこ、きな粉、ゴマのぼたもちが瞬く間になくなりました。また、「恵愛」の職員数名のご支援と、テント等物品をお借りしたばかりでなく「箸まき」という珍しいものを200食提供していただきました。（いずれも無料提供です。）当会の里子たちも、ついた餅を丸めたり、きな粉をまぶしたり大活躍でした。

私は、里子にとっての良き養育者になりたいと毎日頑張っているつもりです。お預かりしている子どもたちとの関係を作るのに、難しさを感じる時もあります。一方で里親は、今回のような台風やウイルスなどから里子を守らなければなりません。改めて責任の重さを痛感しております。引き続き、里子の安全安心に留意しながら、養育していきたいと思う今日この頃です。

昨今、厚生労働省は、代替養育として里親委託率を上げることを目指す中、里親の数を増そうとしています。一人ひとりの子どもにマッチする家庭の数が多ければ多いほど、その子どもにとって選択肢が増えます。里親制度の啓蒙促進のための「里親フォーラム」に、会員をあげて出向し、主に体験談をお話ししております。その甲斐あってか、おかげさまで、だんだんと里親として認定される方も増え、つむぎの会も賑やかになってまいりました。

どの子どもみんな、とてもかわいいです。今後もさらに頑張っていきたいと思います。



4 里親支援専門相談員の紹介



三帰寮 小池 智江

エムウエーブの近く、長野市屋島にある児童養護施設「三帰寮」で、今年度より里親支援専門相談員になりました小池智江です。

昨年度までは長野市要保護児童対策協議会で見守りをを行っている、在宅の虐待ケースに対応するケースワーカーとして学校などの関係機関とともに、子どもや保護者と関わっていました。様々な子ども（ケース）と出会う中で、子どもたちを取り巻く環境が厳しくなっていると感じる事が多くなってきました。

その中でも常に考えていたことは「この子にとって一番いいことは何だろう」でした。「一番良いこと」といってもケースによってさまざまですが、常にその視点を忘れずに、問題が少しでも改善されるようにと願いながらケースワークを行っていました。

私は相談援助の経験はあるものの、里親さんにかかわる知識や経験はありません。そのような中、コロナウイルスのため周りとは接することが難しい最近の状況であり、実際に活動して皆さんから学ぶこともできず、歯がゆく思っています。

存分に活動できるようになったあかつきには、多くの里親さんや先輩の里親支援専門相談員の皆さんから学びながら、微力ながらも精一杯活動していきたいと思えます。

どうぞよろしくお願ひいたします。



つつじが丘学園 宮尾 飛鳥

今年度より、つつじが丘学園で里親支援専門相談員を務めることになりました宮尾飛鳥と申します。以前はつつじが丘学園で指導員として勤務し、昨年度までは病児保育施設で勤務していました。つつじが丘学園では地域小規模児童養護施設の職員として勤務し、家庭的養護で育つ子どもたちの変化、成長を感じ、家庭養護の必要性・重要性を強く感じました。

そしてこれまでは施設に附置されることが多かった児童家庭支援センターが施設とは別に茅野市内に設置され「児童家庭支援センターつつじ」として令和2年4月3日にオープンしました。本園と児童家庭支援センターつつじから里親制度に関する広報活動や相談業務等を行っていきたくと思えます。地域に根差した相談・支援活動ができるようになればと思えます。

とはいっても今年度は里親支援専門相談員1年生です。畑作業で例えるならば畑を耕し、種蒔きをする年になるかと思えます。昨今目まぐるしく変化する社会的養護下の子どもたちの状況と里親制度をどれだけ多くの方々にお伝えできるかと、日々模索している毎日です。

また里親の方々とともにチームとして子どもの育ちを支えていけるような存在になりたいと思えます。

そのためにも里親の方々、関係機関の方々、そして子どもたちとの繋がりを大切にしていきたいと思えます。初心に帰り、多くを学び、支援に活かせるよう励みたいと思えます。

よろしくお願ひいたします。





5 里親と児童福祉施設のパートナーシップ (2020年度)

県内の児童福祉施設には、里親さんにも参加していただける行事や、ボランティア活動があります。

詳しくは各児童福祉施設の担当者にお電話で確認いただき、ご参加ください。

種別	施設名	所在地	担当	連絡先
児童養護施設	飯山学園	飯山市飯山 3180	川久保 恵	0269-62-2339
	三帰寮	長野市屋島 2373	小池 智江	026-244-8355
	患愛	千曲市稲荷山 3842-1	松崎 篤	026-214-1315
	松代福祉寮	長野市松代町東条字腰巻 108-2	玉井 秀樹	026-278-2556
	円福寺愛育園	長野市篠ノ井横田 798-1	石黒 玄章	026-292-5022
	原峠保養園	上田市御所 38	永井 富枝	0268-22-1195
	軽井沢学園 地域里親家庭サポート センタースミール	北佐久郡軽井沢町追分 1422	池上 奏歩	0267-45-1081
	松本児童園	松本市島内 1666-880	一柳 明美	0263-47-0590
	木曾ねざめ学園	木曾郡上松町荻原 1255	杉本 早苗	0264-52-2313
	つつじが丘学園	岡谷市川岸上 4-12-51	川瀬 勝敏	0266-22-2574
	たかずやの里	伊那市東春近 7000-8	石川 結也	0265-72-6456
	慈恵園	下伊那郡豊丘村神稲 4461-1	浜田 陽平	0265-35-4815
	風越寮	飯田市丸山町 4-7537-10	矢澤 淳司	0265-22-1489
	おさひめチャイルド キャンプ	飯田市仲ノ町 305-6	今井 功治 堀川 智美	0265-22-3875
乳児院	善光寺大本願児乳児院	長野市箱清水 3-19-2	上石 雅代	026-232-2292
	うえだみなみ乳児院 上田原事務所	上田市上田原 1050	桐山 由香	0268-28-1192
	松本赤十字乳児院	松本市元町3丁目 8-10	鎌倉 美枝	0263-31-5206 里親支援専用電話 平日 9:00~17:00
	風越乳児院	飯田市丸山町 4-7490-3	吉田 千佐紀	0265-22-4127

6 里親サロン・更新研修・お知らせ



◎ 里親サロン情報

		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
中央		4日 (上田) 18日 (中央)	18日 (中央)	20日 (中央)	14日 (千曲)	15日 (中央)	16日 (千曲)	6日 (中央) 17日 (上田)	18日 (千曲)	18日 (中央)	15日 (千曲)
松本 ※1	特養 子 養育	25日	9日	27日	24日	22日	26日	24日	28日	25日	11日
		13日				3日		5日		7日	
飯田		7月18日(かざこし公園)、9月以降は奇数月に開催予定									
諏訪※2		29日 (諏訪児)	20日	10日 14日	28日	19日	16日	19日	11日	15日	15日
佐久			19日				15日	(以降1~2回開催予定)			

※1 養育里親のサロンの会場は、松本児童園。養子縁組里親の会場は、松本児童相談所。

※2 日程は変更になることがあります。6月以外の会場は調整中です。

◎里親更新研修

	日 程	会 場
第1回	令和2年8月31日(月)	上田市上野が丘公民館 上田市住吉378番地1
第2回	令和2年10月3日(土)	塩尻市北部交流センターえんてらす 塩尻市広丘野村2069番地1

☆「里親だより」は長野県公式ホームページでも御覧になれます。
(長野県→中央児童相談所→児童相談所広域支援センターのページ内)

☆発行：長野県里親だより編集委員会
〒380-0872 長野市南長野妻科144 児童相談所広域支援センター内
TEL:026-238-8010 FAX:026-238-8025
メール：satoya-shien@pref.nagano.lg.jp



大学等への進学助成金・奨学金一覧(里親さん対応可能分) 令和2年度

	名 称	対 象	助成条件	助成金額	例年の申請期間	備 考(問合せ先)
1	PMJ フォスターファミリー奨学助成	里親家庭 関東甲信越静エリア	上限5名 併用可能	50万円/年 (返済義務無)	10月1日～31日	事務局:一般社団法人 RCF (03-6447-0041)
2	雨宮児童福祉財団	里親家庭・施設	他より、入学金助成を 受けていない者	入学金のみ (返済義務無)	9月1日～10月31日	雨宮児童福祉財団 (03-5276-2421)
3	JX-ENEOSU 奨学助成金	里親家庭・施設	併用可能	10万円 (返済義務無)	年末頃 (2月末〆切)	全国里親会 (03-3404-2024)
4	未来のつばさ自立奨学支援制度	里親家庭・施設(就職 も可)	200名 併用可能	15万円 (返済義務無)	11月1日～ 12月20日	公益財団法人 楽天 未来のつばさ (03-5642-7890)
5	朝日新聞厚生文化事業団 「児童養護施設・里親家庭の高校 生進学応援金」	里親家庭・施設	10名程度 他より返済不要の奨学 金を受けていない者	入学金10万円及 び学費年間30万 円(返済義務無)	<u>8月12日〆切</u> ※本年度募集要項出	朝日新聞厚生文化事業団「進学応援 金」係 (03-5540-7446)
6	長野県飛び立て若者！奨学金	里親家庭・施設	併用可能	5万円/月 (返済義務無)	入学後の申請 (5月上旬〆切)	県民文化部こども・家庭課 (026-235-7095)
7	ドコモ奨学金	里親家庭・施設	10名程度	月額5万円(総額6 0万円) (返済義務無)	9月20日～ 10月31日	NPO 法人モバイル・コミュニケーション・ ファンド(MCF)事務局 (03-3509-7651)
8	日本財団「夢の奨学金」	15歳以上の社会的 養護出身者	15名	個々の状況を総合 的に判断し決定	<u>6/1～6/31 受付期間</u> ※本年度募集要項出	日本財団公益事業部国内事業開発チ ーム (03-6229-5111)
9	明光教育研究所給付奨学金	施設・里親家庭・一人 親家庭	80名程度	大学等:最大70万 円 (返済義務無)	12月1日～翌年1月3 1日	公益財団法人明光教育研究所 (03-5937-2691)

(注)記載先に電話にて確認を入れましたが、一部在宅ワーク等にて電話が繋がらない団体がありましたので、申請時期になりましたら直接確認をお願いします。

1 下線の事業は、今年度の要項が出ています。(締切日に注意)

2 自立支援資金貸付事業につきましては、「長野県社会福祉事業団 026-228-0337」にお問合せ下さい。

※詳しくは、児童養護施設 飯山学園、三帰寮、松代福祉寮、恵愛、軽井沢学園、松本児童園、つつじが丘学園、慈恵園、の里親支援専門相談員及び児童相談所にお問合せ下さい。

※日本学生支援機構の奨学金(貸与型)につきましては、在学確認をして下さい。